

小松屋屋焼あり ○七月より浅草寺町正覚寺より中山鬼子母社宇佐宮様御下り
 廣尾丈現も鬼子母社目録高僧も金毘羅権現御焼 ○八月十五日より小石川
 白山権現御焼も八幡宮宇佐宮 ○三月十五日小石川の橋上の宮弁才天御焼御下り
 系清多し ○五月浅草寺五重塔修葺 ○九月牛島御焼 裁木御焼も院あり
 兼の造り物あり ○九月後若所より聖天宮表門の通一志連小石路をむく
 ○十一月廿八日俳人白熱堂風朗卒 飯倉不任始著皇元對岸
といふ谷中 天までも事以 ○十二月五日暮六時吉原
 系町武丁目より火火廓中焼亡 飯宅の花園山の前重五町丸所浅草山川町御焼も越山
谷津川八幡より同所同を聖町八幡宮御焼も同所を聖
陸又中一尺時の接中入江町若所町
八幡も清盛屋 弁才天宮 松井丁あり 寺より寺一掛て飯宅を志つて以午年九月元地
 焼成て引移る 飯宅の二百五十日限とて元地移りて陽ありてふ出する局を志と妻妻志の御園平長
永續名家三長女とて小石川系清を焼も長家と改む
 ○十二月十一日夜飯本所より火火茅場町表裏茶師焼同焼亡

私化三年丙午 五月間

今年正月元日より三日迄のる牛房小毒ありといふ俗説ありし者人念ふに
 ○正月十五日北風烈しく砂石を飛ばし夕刻の小石川片町の小武家地より火火一
 て丸山へ移り本妙寺菊池邊より本妙寺町より元町辺へ本を通湯島町邊へ
 表本町辺神田明神門前 神田社様の境内社無湯島
大佛堂聖堂あり 飯花町仲町の辺あり湯島火火
 酸河基へ飛て小川町へ焼込東西林田町へ一系焼亡今川橋向の本町石町堂町大
 傳馬町小田系町小舟町堀江町小畑町茅場町八ヶ崎濱町永代橋邊連雲巖
 島桑地鉄炮洲御焼 本妙寺邊
中野町 南ヶ崎小のりる丸の江堀邊通神田より一石橋連日
 本橋の向の通一丁目より聖町連系橋より一系焼焼と結る小色れ町へ連連と
 何れとも移り形あり翌年十二月の廿九時之炭町の林河巻へ之移り廿九里十條
 町大小名は藩邸敷を焼くは町枝武百九十餘所焼死怪家入殺りといふは湯
 島山橋より三層の多宝塔 山の上へ建
まほあり 又妻島橋荷社 近以再建と在難
あり社あり も此時焼入り

○新焼の貧民の救の小松三太郎(建)と色空除の族民(も)米珍とあり 馬省の商賈の

○正月十六日燔魔 ハモの焼を成

○三月より深川八幡宮開帳 ○日御修舟才天本社修復成神とて

開帳 ○三月十日より淡路八軒町大園寺より川越在り戸妙昌寺祖師開帳

○三月より米代古地七波り舟才天開帳 昔海(一)せざる高きたては川城の辺より南村

○四月三日より湯島社月之崎玉郡野島津古地荒島開帳 ○四月廿二日御師

小養庵准嶺卒 ○五月晦日関原大聖院不動堂火 刺堂傍 房焼失

○五月十七日志奇兵

國学老録会社園卒 五十八大洲子法師始者本大隅後茶性於田本政称

○六月より回向院

内一言親世より并茶芭舟才天開帳 ○蛛の糸巻成字本巻 若洲百樹七十八の時の巻之

○夏の半より為替くく晴る事稀之六月下旬大雪降降き洪水溢き出く

下総羽生利松川通り堤の辺九尺餘りと聞しが廿八日子上刺葛飾郡権現堂村

より六里上幸川役村堤切き洪水漲り出子住辺家屋を浸し小柄糸の石比花

号肩より上のりなる箕輪の辺一時水溢き床の上二三たり小及び住居を

らげり外(逃)退くを溺死のりはも有りしを日本堤よりりる小茶海(の)か

○六月十五日山王系神社所修復あり同月廿九日小定り此後洪水未

減せし七月より注大田際七日八日より再お始り之大川水勢さき流し大川橋

新大橋永代橋損とて住来より為國橋のを通りあり本所辺りより水新

増し付く本所之士民救中俄に江戸せきとて逆来る人たは足根難いそんごさ

より船持不令せられし日く助船救艘を出されしこれを救あり 以世まる船所

○當年在りあり災より上洲桐生念堂野村及

宇於宮佐野本志宿熊谷谷深谷行田本中外大入り ○喜多静盧丙午弁

一巻を著輯 写本 世の人丙午の年ふ災厄ありと云且當年本生を男を云む世のありとありこれ

弘化四年丁未 弘化四年丁未

○六月より回向院

内一言親世より并茶芭舟才天開帳 ○蛛の糸巻成字本巻

○夏の半より為替くく晴る事稀之六月下旬大雪降降き洪水溢き出く

下総羽生利松川通り堤の辺九尺餘りと聞しが廿八日子上刺葛飾郡権現堂村

より六里上幸川役村堤切き洪水漲り出子住辺家屋を浸し小柄糸の石比花

号肩より上のりなる箕輪の辺一時水溢き床の上二三たり小及び住居を

らげり外(逃)退くを溺死のりはも有りしを日本堤よりりる小茶海(の)か

○六月十五日山王系神社所修復あり同月廿九日小定り此後洪水未

減せし七月より注大田際七日八日より再お始り之大川水勢さき流し大川橋

新大橋永代橋損とて住来より為國橋のを通りあり本所辺りより水新

増し付く本所之士民救中俄に江戸せきとて逆来る人たは足根難いそんごさ

より船持不令せられし日く助船救艘を出されしこれを救あり

○當年在りあり災より上洲桐生念堂野村及

宇於宮佐野本志宿熊谷谷深谷行田本中外大入り ○喜多静盧丙午弁

一巻を著輯

弘化四年丁未

○革毛と小深毛石垣をりといは徳神和を申す。 ○谷中瑞林寺塔頭久成院妙法善神社祈禱の考あり ○高橋石神門不安番を境内へ移す ○七年以来雲障を去す ○徳寺といふ殿れゆるせんふくく二三の古畫を施し餘人これ小孝を加へて画あるの哉ふくく大人の身へてきりのふりて代

嘉永元年戊申 二月十六日改元

今年の小文章の字を以て暗記以運筆の順あり終を小に撰て天を以て章 ○二月六日より晴天十五日のる筋遠橋所の外如雲系は於て室生太史觀進徳身行り九月十三日未傳り身行の日毎小遠をの事輪轡とて錐と立るのあり ○二月廿九日小芝泉在り八日愛茶屋開帳 ○其六所深院如東六所新開帳 ○二月三日青山善光寺にて大坂如光古紙院如東開帳 此所善光寺本堂考法成終せり ○三月廿二日夜赤坂表傳り所を于同日小安久教を町焼亡 ○四月最浮山遊り上人化益 日修寺旅宿す ○二月廿九日喜多静庵卒 千代才名性言 ○五月獲國寺山内松の精小齋を築てふ ○六月初旬より日干 西條保天傳り申教宗院主葬儀内外の書藉小流り一人あり

○六月廿五日八十日回向院より漢縁釈迦如来開帳 今年の菩提蓮法例よりなり檀内衆人御奉出候り候と云くのをせりのあり

○七月小澤芝草葬す小中甲州青柳村福昌寺祖師同不蓮光寺より之縁を漢縁妙光寺祖師開帳 此寺 ○八月浮世捨師英泉没 ○八月廿二日北島玄惠法印百十年忌

市谷仲の町金春氏より縁を狂言身行あり 此寺小芝泉法中ハ觀應元年十月十日小殿せり

○八月廿九日所連哥神壽阿弥墨齋卒 今才名如墨齋者聖華戲号劇神仙也 ○十月浅草東

仲町大路小極校并せ候る ○十二月六日曲亭馬琴卒 八才名解号養父玄圃善徳堂の松号あり始傳漢法に由り云羅齋より之を言す

○十二月九日夜亥刻小泉川歩り移宿より此寺を于月迄燒る ○目黒約人坂土圍り

○川口善光寺本堂善法成終 ○林代文字考一卷梓成 崔峯年戊申編輯

果実風も昔小順ひ百穀豊饒ゆて都鄙の良賤閑之獲り事多きを成殊小快楽成

新 東古の事乃とも昔あひ妹の母を父之神奈佛命或啓命の場を賽一其を
二及れお撲の福様一花樹に或は深園に遊び六市井の置座を遊け多麻川に魚を
とびて橋を小舟路と忘れ真間と丹楓を賞ぐ六詩を賦秋を涼一斜陽を懐む
遊軍を抄る浪実より昇平の海思深く一造次顛沛忘るまじくと

あつたのころころあつたころころあつたころころあつたころころあつたころころ
筑紫の海を渡る舟がなつて海をぬき世に海をぬき舟一千里
いづちかかゝるにたふすまゝの舟がなつて海をぬき世に海をぬき舟一千里
りのころころあつたころころあつたころころあつたころころあつたころころ
ねむりもあつたころころあつたころころあつたころころあつたころころあつたころころ

嘉永改元戊申年冬穀且稿成

編者 森藤市左衛門幸成

武江年表卷之八畢

去歲獲りしせる前輯四卷の内備考の撰れるも有り自己の撰れるも有り
必きりあつたころころあつたころころあつたころころあつたころころあつたころころ

一三表 文祿二年小徳老角の出身を北條五代花画上の出入ふあつたころころあつたころころ
上と以素ふけとむる末日幸松のそとらるる前あり

同十表 梅花をそそる花國の名ある由記の暗記の撰之龍川と丸層の塔の
ありころころあつたころころあつたころころあつたころころあつたころころ

同十七表 上野の地伊賀の上野小園とある写ると記す説の非あり永禄年中
小茶家のみ張帳とも上野の名をえり

同二十表 法養和尚の偶夫が南北とせ夫と昔若松と夫ととせり
同廿四表 細江孔頼と撰て孔歎と書せり

二一表 伊丹右末の戸砂をよすして在来とあるは撰之藤原物語に綴りく右
系に改むべし

同五表 三ごとく古繪巻ふすりてあつた記りこれみづく一ぬと唱へしに記す子
小御徳の意ともと云ふ

同十一表 卷末を系板本缺くた系とせり
同二十表 雑豆海のあつたの向ふ署さしけとあるふきとをさしけと云ふ

同廿三表 當時の戸町敷子を六百餘町と記り千七百餘町と改むべし
同廿五表 三浦義隆尾後とありて記すは後十人不係るべし後千二百あり

武江年表卷之八

同廿六裏 小宗本川通勢地出来人改新番新深川は建と記せる標あり此時迄

深川は今の富年格の傍り年々中川の谷に移されあり

三二表 橋上守供養務物師推名伊藤吉寛が改むべし

同表 延宝三年の下ふし外とあるべきは誤り

同四表 仮名世祝より國町の治法とあり是等と訂正するものあり

これらとくちゅうのたてて別紙に別名町の事

同十二表 貞享の洪水より六郷格の流るるは月三年宮古月十二日ある

の水は橋下より一帯一言ある

同十五表 善光寺を先言ふに改むべし

同十七表 江州田山を是の江州石津とあり

同十九表 縣宗知を揚と懸とあるをり

同二十一表 英一察緯世のちやの句ありや宮古の爲の月と記せるは

誤りあり

同十七裏 富士初若翁様物とあるは誤り翁様物とあるは物に傍宗と

此條尚温謐あり人も知るなりは誤り

誤りあり

庚戌季煉あり

右編四卷傳書 宮城昌成

齋藤長秋居士編述

江戸名所圖會

上帙十冊

下帙十冊

全二十冊出來

長谷川雪且先生画

齋藤長秋居士編述

江戸名所圖會拾遺

全十冊近刻

長谷川雪且先生画

齋藤月岑先生著

東都歳事記

全五冊

長谷川雪堤先生画

齋藤月岑先生著

聲曲類纂

全六冊

長谷川雪堤先生画

式五手長卷

每歳ニ江府テラ元神事佛會並貴賤ノ風俗マテテ
四時ニ分チ記シ遠邦他郷ノ人ヲシテ江戸ノ歳時ノ
盛ナルヲ知ラシメントスコレニ加フルニ花鳥雪月ノ佳境
ヲ載ス多クハ郊外ニアリトイヘドモ江城ノ良賤歩
ヲ運ブノ勝區トモニ記シテ遊觀ノ助トス

淨瑠璃節ノ世ニ行ハレヨリ流汎ノ分レル年代ヲ探リ
アツム卷首ニ系圖ヲノセ概畧ヲシラシム小野於通ガ傳
三味線ノ権輿ヲ詳ニシマタ寛永正保ノ頃古圖ヲ徵ト
シ末曲節ノ名目伊勢音頭末節大盡舞四竹ホ
ニ至ル迄委シクソノ由未ヲ記ス

嘉永三年庚戌十一月刻

大塚齋橋北久太郎町

河内屋喜兵衛

同心齋橋通博勞町

河内屋茂兵衛

同心齋橋通安堂寺町

秋田屋太右衛門

江戸日本橋通二丁目

須原屋茂兵衛

同 浅草茅町二丁目

須原屋伊八版

發行書林

發行

書林

京都三條通升屋町

出雲寺文次郎

大塚齋橋筋北久太郎町

河内屋喜兵衛

同心齋橋筋安堂寺町

秋田屋太右衛門

江戸芝神明前

岡田屋嘉七

同 日本橋通二丁目

山城屋佐兵衛

同 横山町三丁目

和泉屋金右衛門

同 本石町十軒店

英屋大助

同 神田旅籠町二丁目

紙屋徳八

同 大傳馬町二丁目

丁子屋平兵衛

同 日本橋通二丁目

須原屋茂兵衛

同 日本橋通二丁目

須原屋新兵衛

同 日本橋通四丁目

須原屋佐助

同 神田通新石町

須原屋源助

同 浅草茅町二丁目

須原屋伊八